会員だより

「初めての災害査定に携わって」

佐賀県県土づくり本部
河川砂防課防災担当 副主査
諸石　幸輝

1．はじめに（自己紹介）

私は平成20年に総合土木職として入庁し、今年度で７年目を迎えました。初任地では農業土木事業を３年、次の事務所では街路整備事業を３年担当してきました。なお、現在所属する河川砂防課防災係は、今年４月からの配属となり、主に水防テレメータシステム関係や災害復旧事業を担当させていただいています。

ただ、災害復旧事業の現場経験は、入庁５年目に河川災害を１箇所経験したのみで、他は管内の災害査定の補助班として参加したぐらいでした。

そのため､現在の担当への異動を知ったときは、河川の経験もほとんどなく、浅い災害経験でもあったため、非常に不安な気持ちでありましたが、経験豊富な課内の先輩方に支えられながら、出水期の水防配備も何とか乗り越え、今日まで業務に励んでいるところです。

2．佐賀県の概要

本県は、九州西北部に位置し、東は福岡県、西は長崎県に接し、北は玄界灘、南は有明海に面しており、県の北部には天山・脊振山系、西部には多良山系が連なり、南部には広大な佐賀平野が広がる緑豊かな自然環境を有した地域です（図－１）。県内の河川は、一級河川は筑後川、嘉瀬川、六角川及び松浦川の４水系285河川で延長1,084km、二級河川は60水系174河川で延長509kmとなっています。

また、県の東部には、九州を南北に貫く九州自動車道と東西に走る長崎・大分自動車道のクロスポイントである鳥栖ジャンクション（JCT）があり、交通の利便性に優れています。

本県では、これらの自然環境・交通を生かしたイベントも盛んであり、特に嘉瀬川河川敷をメイン会場にアジア最大級を誇る「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」が毎年11月上旬に開催され、今年の観客動員は５日間で85万人を記録しました。また、毎年４月に行われる「さが桜マラソン」については、全国屈指のフラットなコースのため、ランナー向けサイトなどで高い評価を得ており、来年のフルマラソンの参加申込者が募集開始から12時間で定員の8,500人に達しました。

図－１　位置図

会員だより

3．佐賀県の気候

本県の気候は、県中央部の山地を境にして、県の北部が日本海型気候区、県の南部が内陸型気候区に分けられ、年平均気温16℃前後の地域が広く、穏やかな気候です。

また、降水量は、東の脊振山系から西の国見山周辺の山間部で多く、これらの地域では年降水量が2,500㎜を超えます。一方、北部の玄界灘沿岸、南部の佐賀平野では雨が少なく年降水量は1,800㎜前後です。

4．近年の災害状況について

直近５カ年については、平成21年度の281箇所をピークに減少傾向ではあるものの、平成24年度の九州北部豪雨による78箇所といった近年のゲリラ豪雨による災害が目立っています（表－１）。

なお、今年の災害は、７月から８月までの集中豪雨により、現在まで災害件数が47箇所（河川16箇所、道路31箇所）で、３次査定まで実施していただきました。

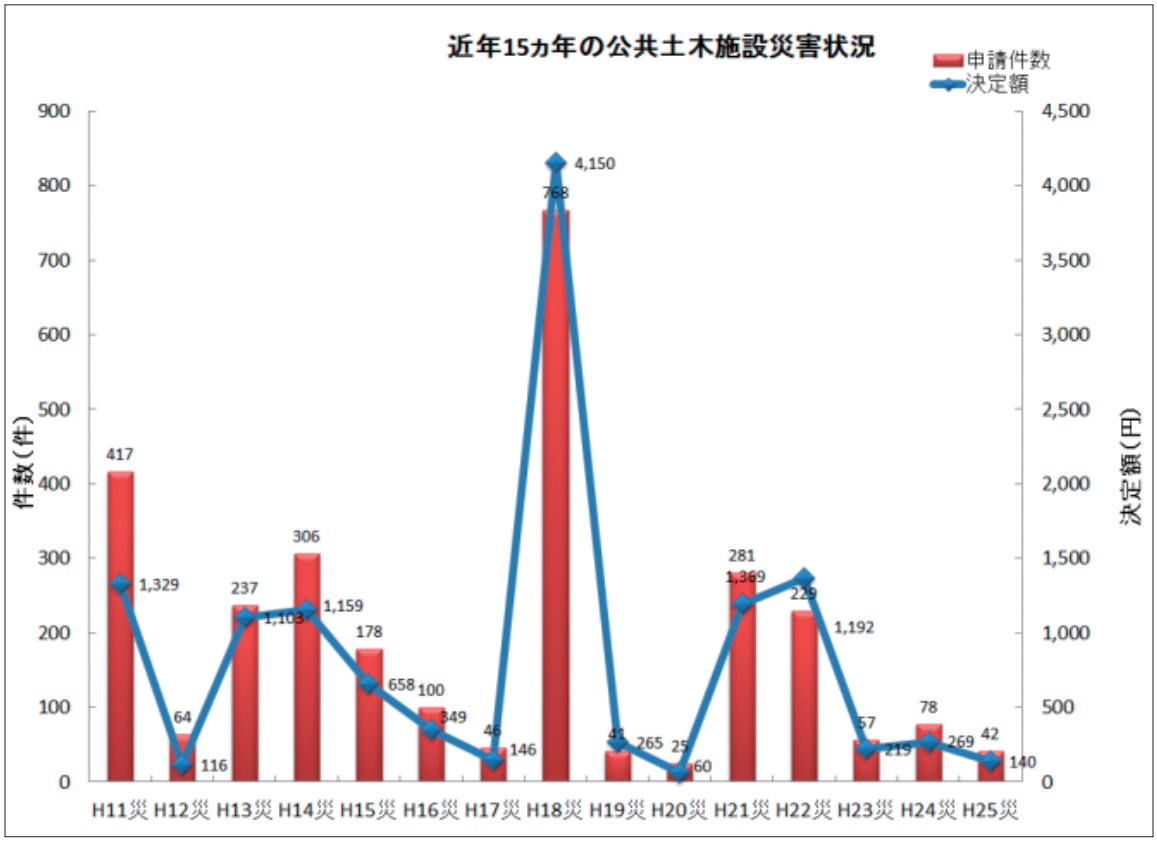
5．災害査定

(1)　査定準備

私が災害査定に携わったのは、今年の８月３日～５日の豪雨による２次査定が初めてでした。このときの気象概要は、太平洋高気圧周辺部の低気圧から発達した積乱雲が発生したことにより、県内では最大24時間降水量が225.0㎜、最大１時間降水量が46.0㎜の大雨となりました。この影響により、道路災害６箇所（県道１箇所【写真－１、２】、市道５箇所）、河川災害４箇所（普通河川４箇所）が発生しました。そのため、私は初の災害査定に向けて、係先輩方と準備を始めたわけですが、まず私の作業としては、気象資料の作成でした。気象資料は、災害発生期間の気象概要をまとめて、被災原因の根拠資料として重要なものです。

そのため、資料作成は慎重に進めたつもりでしたが、本番では…。その後、査定前日には、査定官、立会官、随行者の備品関係をまとめて準備万端で本番に臨みました。

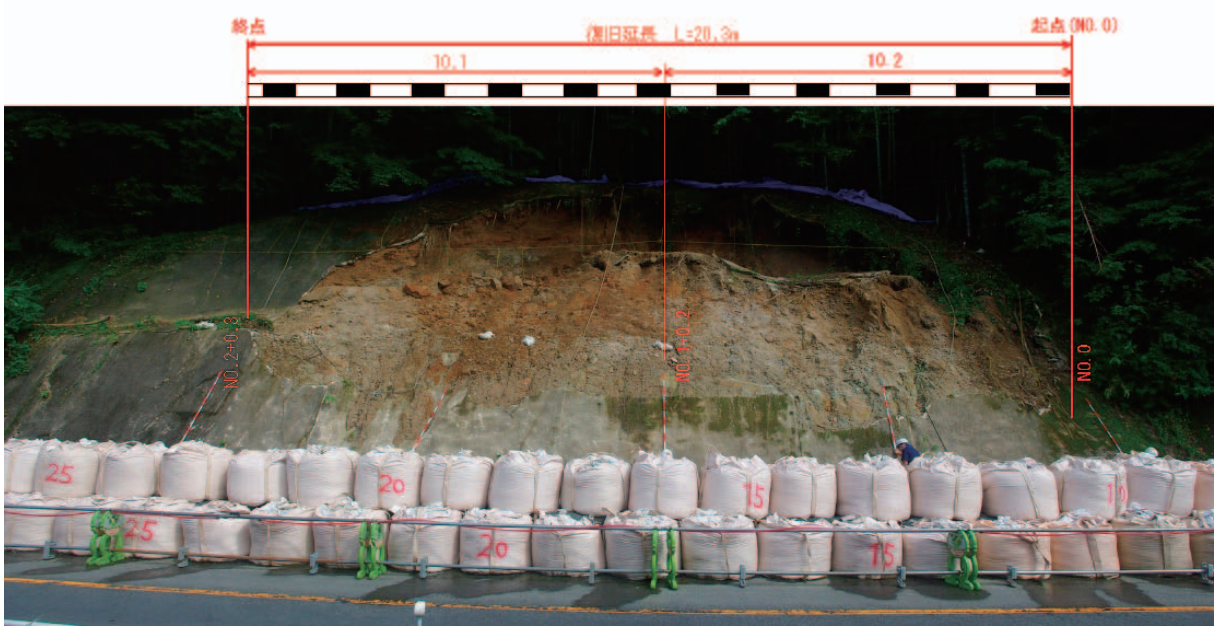
表－１　近年の公共土木施設災害状況



会員だより

写真－1　武雄福富線　被災直後写真

○工事概要
工 事 名：26年災　武雄福富線道路災害復旧工事
路 線 名：主要地方道　武雄福富線
施工位置：武雄市橘町芦原地内
工事概要：復旧延長　L＝20.3m
吹付法枠工　348m
モルタル吹付　205㎡
小段排水工　20m
仮設防護柵　88㎡
決 定 額：26,656千円



写真－2　武雄福富線　被災全景写真

表－2　今年度の公共土木施設災害　一覧表

	第1次査定	第2次査定	第3次査定	合　計
期　間	8/27～28	10/8～9	10/20～23	8日間
班　数	1	1	2	4
申請個所数	6	10	31	47
申請金額（百万円）	36.9	50.4	208.2	295.5
決定箇所数	6	10	31	47
決定金額（百万円）	33.4	49.6	203.7	286.7

会員だより

⑵　査定本番

２次査定は、平成26年10月８～９日の２日間で、初日が実地査定５件、机上査定が５件行われました。査定本番では、まず初めに今回の災害に関する概況説明が行われたのですが、立会官より、気象資料の内容に関して、代表雨量局の降雨量表と雨量一覧表との整合がとれていないというご指摘をいただき、開始早々から冷や汗をかいてしまいました。

その後、実地査定～机上査定が行われたわけですが、その中で査定官が特に確認されたことは、①起終点の根拠、②根入れ・天端高の根拠、③境界確認、④トータルステーションの場合の写真の簡素化、⑤環境に配慮した護岸の復旧でした。特に、⑤に関しては、災害復旧に限らず、河川管理者として大切にしなければならない考えであるということに改めて気付かされました。

また、実地査定中は、現場に到着すると、長靴等の備品関係の準備などを始めるわけですが、限られた時間内ということもあり、ついつい現場内を走りがちだったのですが、「人災も起こさないためにも現場内では絶対に走らないこと」というご指導もあり、とにかく焦る気持ちを抑えるようにしていました。

初日は、何とか実地・机上査定を無事に終え、２日目の朱入れを迎えることができました。

最終的には、県及び市町をあわせて、10箇所、約49百万円の採択を受けました（表－２）。

今回、初めての災害査定を経験したことで、最も印象に残ったことは、災害査定が通常の事業とは異なり、短時間で被災状況の確認と工法検討等を行い、申請者、査定官、立会官の三者合意の上で、その場で事業採択がなされるという査定の迅速さに強い衝撃を受けました。そのため、申請者として、①現場状況の十分な把握、②最適な工法の決定、③適切な積算等の重要性について、十分に理解することができました。

６．さいごに

今回の災害査定に当たっては、国土交通省九州地方整備局の査定官、財務省福岡財務支局の立会官をはじめ、多くの方々にご指導・ご支援をいただき、この紙面をお借りして、厚くお礼を申し上げます。

今年４月から半年を過ぎたところですが、振り返ると、水防・災害を中心とした人命にかかわる多くのことを学ぶことができました。今後は、早期復旧のためにも、今回の災害査定の経験を生かして、今後の業務に励んでいきたいと思っております。

最後になりますが、緑豊かな自然環境、古代からの歴史・文化に恵まれた佐賀県にぜひ皆様お越しください。

佐賀インターナショナルバルーンフェスタ

唐津くんち